

令和7年度 授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第六小学校

1 学校として目指す授業

個別最適な学びや、カリキュラム・マネジメントを通じた問題解決型学習による協働的な学びと、全ての児童に「できる。分かる。」喜びを味わわせられる授業。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、国、都ともに平均を下回っている。全国平均との差は0.2ポイントと僅少である。C:読むことに関する間違いが多い傾向が見られた。	・学校の授業時間以外に、1日当たりの勉強をする時間が2時間以上の児童が18.2%と東京都の数値と比較して20%程度低く、1時間未満の児童は全体の50%以上である。多くの児童に学校以外で学習に向かう生活習慣が身に付いていない。また、自分と違う意見について考えることや、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することに対して苦手意識のある児童が比較的多い。
・算数では、都の平均は下回っているが、国の平均と同じポイントである。A:数と計算についての間違いが多い傾向が見られた。	
・理科では、国、都ともに平均を下回っている。全国平均との差は0.5ポイントと少し開きが見られる。「エネルギー」に関する問題についての間違いが多い傾向が見られた。	

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしているか。」という点で「当てはまる」と答えた児童が4年生25%、5年生20%、6年生14%である。また「他の人と相談して、考えを深めるようにしている。」という点で「当てはまる」と答えた児童が4年生36%、5年生22%、6年生19%と、いずれも物事を考えることに対して積極的に取り組めていない傾向があることが分かる。
・授業でも、「自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。」という点で「当てはまる」と答えた児童が4年生26%、5年生24%、6年生17%と、考えを形成し、他者に伝える活動を取り入れることがなかなかできていないことも分かった。このことから、本校の研究内容である「関連図書を読んで考えを形成する活動」と関連付けながら授業改善に取り組んでいく。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語では、総合的な平均正答率が市町村の平均正答率を上回っているが、文章を読んで構造や内容を理解したり、適切な情報を選んだり読み取ったりすることに課題が見られる。また、書くことに関しては、市町村の平均正答率を下回っている。このことから2学期以降は、物語文や説明文から得られる情報の読み取りや自分の考えを書くことなどの指導に重点的に取り組むこととする。
・算数では、総合的な平均正答率が市町村の平均正答率を上回っている。しかし、既習事項が十分に身に付いていないと考えられる児童も多いため、2学期以降は東京ベーシックドリルなどを活用した反復的な学習を適宜設定し、既習事項の定着を図ることとする。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・本校の児童は、体力テストの結果が全体的に低く、基礎的な体力や運動能力の向上が課題となっている。そこで、体力テストを通して児童が自分の体力や運動能力を正しく理解し、主体的に運動に取り組む姿勢を育むことをねらいとして、体育委員会を中心に「体力向上プロジェクト」に取り組んでいる。走や投げの運動を中心に、日常的に体力の向上を意識した活動を継続的に行なうことで、体力テストの結果向上をめざしている。体育の授業では、ICT機器を活用して自分の動きを動画で撮影・確認し、見本となる動画と比較しながら正しいフォームや動きを身につけられるようしている。これにより、自分の課題に気づき、意識的に改善する力を養っている。また、運動の成果や意識の変化を把握するために、アンケートや振り返り活動を実施し、児童の声を今後の指導に生かして、継続的な授業改善を図っていく。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・学力調査の結果、国語・算数・理科の各教科において全国・都の平均をやや下回る傾向が見られた。国語は全国との差が0.2ポイントと僅少であり、市町村平均を上回る結果であったが、文章の構造や内容を的確に把握し、自らの考えを表現する力に課題がある。算数は全国平均と同水準で市町村平均を上回ったが、既習事項の定着が不十分な児童が見られ、基礎的な学習内容の確実な習得が必要である。理科においては全国との差が0.5ポイントとやや大きく、「エネルギー」に関する理解に課題がある。
・学習状況に関する調査では、「自分の考えを積極的に発表する」「友達と相談し考えを深める」と回答した児童の割合が学年の進行に伴って低下する傾向がある。授業における思考の整理や意見交換の機会の設け方に課題がある。今後は、読解力と表現力を高める指導の充実を図るとともに、反復学習を通じた基礎学力の定着を図る。併せて、本校研究課題である「関連図書を用いて考えを形成し、他者に伝える活動」と結び付けた授業改善を推進し、児童一人一人の学力と学習意欲の向上に取り組んでいく

4 学校全体の授業改善の視点

・単元学習前に、重点的な指導事項に関する診断的評価を実施し、基礎的・基本的な学習に対する児童の困り感を適切に把握する。それを基に、一単位時間の中に個の課題に応じた学習活動を設定し、教師が支援を行なったり、児童が相互に学び合ったりできるようにする。
・本年度の各調査で明らかになった本校児童の課題を解決するために、学校図書館を活用した学習過程を設定するとともに、目的に応じて必要な情報を収集したり、読み取った情報を適切な方法でまとめたりする指導に取り組む。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎…実施した。 ○…一部実施した。 △…未実施

5 各教科における授業改善の方策

国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価		
低学年	・各領域における学習方略を示すとともに、身に付けた力を簡単な言葉で表す指導を取り組む。 ・「読むこと」においては、教材を通して学んだことを意識してリリーズ本等を読む学習過程を設定し、習得した読み方が身に付くよう指導する。			・物の数を求める問題では実物を基に考えたり、実際の時計を使って時刻を求めるなど、具体物を用いた課題解決の場を設定する。 ・計算問題では、児童の実態に応じて問題数を変えていく。				・植物の世話や虫の飼育などを体験することにより、動植物に愛着をもって接する態度を養う。 ・植物や動物の観察後、見たものをカードに記録し、成長や生長に気付かせる。		・音程感やリズム感を育てるため、範唱や範奏を繰り返し聴かせたり、階名唱や暗譜の活動を取り入れたりする。 ・身体を動かす活動を取り入れ、友だちとの遊び表現ができる環境を整える。		・自分の表現したいものを見付け、のびやかに表現できるよう個々に応じた声かけを行い、様々な道具や材料に慣れ親しませ、はさみ、のりなど基本的な道具の正しい扱い方を繰り返し指導する。		・児童が楽しみながら学習できるよう、場の設定を工夫する。 ・個人の伸びを感じられる声掛けを行い、成長と達成感を味わわせる。年間を通して用具操作の運動に慣れさせていく指導をする。			・木工具など新しい道具や材料の扱い方を知らせるとともに、絵の具やバス、はさみ、のり、カッターナイフ等を使う機会を増やし、適切な扱い方について繰り返し指導する。		・児童が自らの課題に取り組めるように場の設定を工夫する。 ・児童が成功体験を得やすいように、ルールを緩和したり、場や道具等を簡易化して指導をする。		・小さな自己表現でも大いにほめ、自信をもって会話できるように指導する。 ・例文をわかりやすく提示し、繰り返し会話できる学習を工夫する。		・内容項目や教材文をきっかけとして、人物の行動や自己の体験を具体的に振り返り、役割演技や意見交換を通して、道徳的価値を多面的に理解する。 ・自己の変化や実践意欲を振り返りを書く。
中学年	・各領域における学習方略を示すとともに、身に付けた力を短い文で表す指導を取り組む。 ・「読むこと」においては、教材を通して学んだことを活用して関連図書を読む学習過程を設定し、習得した読み方が身に付くよう指導する。	・導入では、社会的事象を自分事ととらえられるように、身近に感じられる資料を活用する。 ・教科書や資料集、ICT教材などから調べたことをまとめるための視点を指導する。		・問題文や式の意味が理解できるよう、思考を整理しながら課題解決に取り組む場を設定する。 ・既習内容を生活場面で実感させたり、生活場面から学習へつなげたりする。				・実験や観察をする前に、児童の生活経験や既習事項から予想を立てられるよう指導する。 ・学習した用語を授業の中で振り返る機会を設定する。		・楽曲について強弱や音色などの音楽の構造を共有しながら、思いを膨らませ表現できるようにする。 ・音楽に親しめるよう、なじみのある楽曲や児童の実態に合う楽曲を題材として、興味・関心を広げていく。		・木工具など新しい道具や材料の扱い方を知らせるとともに、絵の具やバス、はさみ、のり、カッターナイフ等を使う機会を増やし、適切な扱い方について繰り返し指導する。		・児童が楽しみながら学習できるよう、場の設定を工夫する。 ・児童が成功体験を得やすいように、ルールを緩和したり、場や道具等を簡易化して指導をする。		・小さな自己表現でも大いにほめ、自信をもって会話できるように指導する。 ・例文をわかりやすく提示し、繰り返し会話できる学習を工夫する。		・内容項目や教材文をきっかけとして、人物の行動や自己の体験を具体的に振り返り、役割演技や意見交換を通して、道徳的価値を多面的に理解する。 ・自己の変化や実践意欲を振り返りを書く。					

